教育における 101 のステップ



オスマン・ヌーリ・トプバシュ

エルカム出版社

イスタンブール 1439 / 2017

オリジナルタイトル: Eğitimde 101 Adım
著者: オスマン・ヌーリ・トプバシュ
翻訳者: ヌールッラー・サット
チェッカー: サット・佐紀
グラフィックデザイン: ラーシム・シャーキルオール
ISBN: 978-605-302-425-5
住所: Ikitelli Organize Sanayi Bölgesi Mah.
Atatürk Bulvarı, Haseyad
1. Kısım No: 60/3-C
Başakşehir, Istanbul, Turkey
電話番号: (+90-212) 671-0700 pbx
ファックス: (+90-212) 671-0748
ホームページ: info@islamicpublishing.org
ウェブサイト: www.islamicpublishing.org
印刷者: エルカム印刷所
Language: Japanese

エルカム出版社

教育における101のステップ

オスマン・ヌーリ・トプバシュ

エルカム出版社

エルカーム出版社
言葉のうち、最も美しいものであるクルアーンから；

“そしてアッラーがあなたに善いものを与えられているように、あなたも善行をなし….
（物語章第77節）

“その日あなたがたは、（現を抜かしていた）享楽に就いて、必ず問われるであろう。
(蓄積章第8節)

1

教育は母の胎内で始まる。人の最初の先生は母親である。

2

子供たちは両親と教育者に善行を施させる為に与えられた精神的な信託である。

3

両親が子供に遺す最も貴重な遺産はよい徳、しっかりした性格と人格であり、これを獲得する為には良い教育が必要である。

4

被造物の中で最も教育を必要とするのは人間である。生活における最高の芸術は人を育てることである。アッラーは最も偉大な教育者として預言者達を派遣された。つまり、教育奉仕とは、預言者の職業なのだ。

5

教育者はただ情報を与える人ではない。誠実さの種子を蒔き、視野を開き、常識へと導き、行動のあり方、礼儀と作法を教える者である。つまり教育者とは、は生徒に立派な良心を築かせるのだ。

6

子供を育てる為に、彼に寝る場所を提供すること、彼のお腹をいっぱいにすることは十分ではない。彼の理性や精神世界を知識と叡智で飾ることが必要不可欠なのだ。

7

教育者は育てる人を、心の人として育てる必要がある。外面的な知識だけではなく、精神的なこと、秘められていること、そして叡智に対しても興味を喚起させるべきである。

8

精神性なしに一方的に与えられる教育は不十分である。物質と概念のバランスは不可欠である。そうしないと、一つの翼で飛ぼうとする一羽の鳥のように、腹をすかせた猫の餌食となってしまう。

9

人生の流れについていくことのできないあらゆる存在はいつか消えてしまうことが定められている。聖アリーが(R.A) が以下のように仰せられたのはその為である。「子ども達をあなた自身が生きている時代にあわせてではなく、彼らが生きる時代にあわせて育てなさい」

10

良い教育を受けた、献身的な一握りの人がいるなら、あなた方の民族は勝利をおさめている。さもなくば、敗北しているのだ。

11

ある民族の未来を読み取ることは奇跡ではない。その為には子供と若者を見れば十分である。もし彼らが自分の力やエネルギーを善行や精神性や美徳の道において費やしているなら、その民族の未来も明るいだろう。逆に、エネルギーを野蛮な力や欲望に費やしていれば、その未来は悲劇的なものであろう。

12

資本は、投資をするのに最も効率的なところを求める。教育は投資されるべき一番大切な分野である。未来の為に一番大切な計画は、良質で理想的な人を育てることである。

13

教育者は人々に、畏敬の感覚を起こす立派な性質を示し、精神から慈悲を溢れさせ、心から光や、精神性やポジティブなエネルギーを照射するべきである。

14

話すこととやることが一致しない人が、他の人々を説得することは不可能である。ズィヤーパシャがこう言う:「鏡は彼の行いを映し出す、彼の話ではなく。」

15

教育者は学んだこと、他の人々に勧めたよいことで、まず自分の生活を飾り、その件において一つの実例となるように努力するべきである。

16

教育者は周りにポジティブなエネルギーを照射するべきである。動物の生活もこの件において教訓を含むものである。鶏は雛を育てる時、翼の下で守る。蛇はそのまなざしで子どもの蛇を育てる。蠍は自分の子を背負う。動物がこのようなことを行うのだから、人はどうあるべきであろうか。

17

信頼がないところでは質のよい教育はできない。教育者は何よりもまず周りに立派な性格を示すべきである。何故なら、人々は立派な性格を持ち、まじめで模範的な人格を持つ人々に驚嘆し、その後に続こうとするのである。

18

大衆は、その前にいる人を見て、形成付けられる。幸福の時代は 預言者ムハンマドの精神的な組成によって形作られた。Ashabı Suffe 「スッファの人々」はこの最も明らかな比喩である。スッファの生徒たちの一人であったアブドゥラー・イブヌ・メスード(Abdullah İbn-i Mesud) は預言者ムハンマドから学んだ礼儀によって高められたレベルについてこう話す:。

「私たちは自分が飲み込んで、自分の喉を通る食べものの行うズィクルすら、聞くことができた。」

19

預言者ムハンマドの最も重要な教育方法は説話であった。何故なら説話には心的な関係がある。説話を行う際には、聞き手にあわせた学びが実現される。説話はある意味で、聞き手に処方箋を書くことのようである。

20

教育者は、自らに委ねられたあらゆる生徒達が将来頂点に立つ人物になる可能性を考慮すべきである。全世界を変える天才を委ねられているかもしれない、ということを忘れてはいけない。

21

教育者は上質の教育を与える為、彼自身の発展をも無視してはいけない。いつも自分を発展させるように努力することが、彼の本質的な特性となるべきである。さもなければ、多くの能力と才能が教育者の力不足の為に損なわれることになる。

22

立派な世代は立派な教育者、つまり、知識と良識から教える成熟した人物の作品である。十分な素質のない教育者が教えた人物は当然、彼自身のように素質のない無力な人となる。

23

完璧な生徒を求めるのなら、完璧な教育者でいなければならない。

24

修理されたものは、それを修理した人の名刺である。教育者の質は育てた生徒のレベルによって測られる。

25

教育者が自らををよく教育することは、重要な義務である。なぜなら質の悪い教育者とは、委ねられた生徒達の時間を無駄するということを意味するからである。

26

羊飼いは自分の群れに責任を負う。。足が折れた羊は、抱いて運ばなければならない。このように、生徒たちも、教育者に委ねられているのだ。

27

誰でも、自分の言うことは重要であると思うし、尊重されることを求める。だから、教育者は何か問題があって教育者のところに来た生徒を無視せず、尊重し、話を良く聞くべきである。

28

教育者は生徒を大切にし、重きを置き、これを自分の態度で相手に感じさせるべきである。

29

巨大の木のような生徒を、１メートルのブッシュに変える教育者はアッラーの前で責任を負う。

30

教育者は生徒達のキャラクターをよく知るべきである。何故なら彼らの心入り込む道はそうして見つかるからである。

31

性格や人格は様々であり、ある方法や勧めはある生徒に役に立ち、他の生徒には被害を与えるかもしれない。だから、教育者は自分の生徒たちの精神的な名刺を十分に認識すべきである。

32

教育者は、誰にどんな才能があるのであれ、彼をその方向で発展させるため、生徒の性格と能力を熟知するべきである。

33

現在は残念ながら人々は洪水に流される流木のように、意識を伴わない生き方へと流されている。なお悪いことは、資格のある教育者によって上手に育てられるべき人々が、その教育を受けることができず、無駄になってしまっているということである。

34

教育者は生徒達に対して優しく公正、公平でなればならない。できないことを負わせるのではなく、それぞれをその力に応じて評価すべきである。

35

公平な先生は全クラスの教師であり、公正さのないクラスには安らぎも存在しない。安らぎがない教室では授業ができない。授業ができないところでは教育も行われ得ない。

36

教育者は、公正さを大切することとは皆に平等であることではなく、生徒が要するものを彼に与えることと知るべきである。公正さに害を及ぼすあらゆる行動を避けなければならない。

37

教育者は、あることに判断を下す時だけではなく、評価する時、証言する時、すなわちいつでもどんなことにおいても公正であるべきである。

38

教育者は効率的に授業をするためにクラスの性格や話す項目の教材を考え、計画を立てるべきである。

39

計画通りに行動する教育者は、その計画のおかげでどこまで授業したか、何を話したか、どのくらい効果があったかを知ることが出来る。

40

教育者は授業を計画する時、教育技術をどこで、いつ、どう適用するするかをよく考えるべきである。

41

教育者は自分の義務はただ情報を伝えることではないと理解すべきである。話すテーマの準備をする時、必要とあれば生徒達の関心をひくものを用意するべきである。授業を生活と関連づけて説明すること、質問—答えのメソッドを用いることは、生徒の活気を保つ。

42

教育における最も基礎的な成功のカギは、忍耐と寛容である。

43

教育者は直面した危険や困難に対し、ひるんではいけない。逆に、困難な状態であるからこそ、忍耐を強め、さらに強くなるべきである。

44

教育者は無力さ、不可能さを目にしても
決して失望せず、また不注意に陥っても
いけない。

45

永遠の幸福をもたらす命の水が殆どの場合、困難な状態の中に秘められていることを忘れないべきである。なぜなら、人生を価値のあるものとするものは、崇高な目的のための努力と寛容である。

46

教育は一時的な情熱ではない。最期の瞬間まで愛情を持って行うべき義務である。従って教育者の糧は忍耐、支えはアッラーとなるべきである。

47

教育者とは、どの社会にいても信仰の熱意を維持することができる、心を財産や利害の不安から遠ざけていくことのできる、そして教育されるべきの人々の声を聞くことができる人物である。

48

教育者が教育奉仕の為といって子供や両親、糧を得ている仕事をないがしろにすることが誤りであるように、これらを理由にして教育奉仕から遠ざかることもまた、誤りである。

49

教育者は、得られなかった物質的な可能性の為に過度に悲しむべきではないし、傾斜している世俗的なことの為にも、過度に喜び調子に乗るべきではない。

50

教育者は授業の時間以外にも生徒達に時間をさくべきである。職場に出入りする時にカードを入れる社会人や欠席票にサインをする公務員のようであるべきではない。

51

教育者は、問題を作る人ではなく問題を解決する人であるべきである。批判し、悪い面を探す代わりに、どの状態においても建設的、楽観的にアプローチするべきである。

52

教育者は教育奉仕での失敗のために他人を責めてはいけない。まずその失敗の理由を自らにおいて探すべきである。

53

仕方がない、能力がない、時代が悪い、誰も来てくれないなどと言い訳する教育者には、アッラーが石の壁の中からいちじくの木を出し、果物を栽培して答えを示される。

54

教育は困難を前にして不平不満を忘れる芸術である。不寛容と不平不満が始まる時、教育は終わる。

55

教育者は可能性と機会とがやってくるのを待っていてはいけない。彼は常に奉仕する機会を探し求めているべきである。

56

教育は座りながらやることではない。教育のためには高いエネルギーが必要である。その為にまず、心はポジティブなエネルギーで満たされるべきである。

57

熱意と興奮でいっぱいの心で蒔かれた知識の種子は将来のプラタナスである。

58

教育者は皆に認められて守る倫理をよく
理解しなければならず、それを絶対無視
してはいけない。

59

優しくて、親切で、深い魂を備えた教育者は、教育奉仕を宗教的実践の興奮のうちに果たす。誰も傷つけてはいけないし、誰からも傷ついてはいけない。心はアッラーが見られるところであることを忘れないべきである。

60

教育者はいつも自分の態度に気を付けるべきである。友達に冗談を言う時でも、丁寧さに重きを置くべきである。

61

教育者は親しさとと節度のなさ、謙虚さと屈辱、尊厳と傲慢の境界に注意してこれらを混同してはいけない。

62

教育者は人生のあらゆる段階、特に教室にいる際、イスラームの特性に応じた態度をとるべきである。彼の全ての態度、あらゆる言葉が生徒達の性格を形付ける一つの煉瓦のようであることを決して忘れないべきである。

63

教育者は、態度の譲渡である教育において、自らの不足や欠点もまた、相手にコピーされ得ることを考え、その責任を感じるべきである。

64

教育者は相手を許し続けることで、アッラーの許しに値する状態に至ろうとする。奉仕者であるべきである。

65

皆、自分への優しい態度を必要とする。
人々に対しての優しい態度は、敵の敵意
をそぎ、友人の愛情を強める。

66

人を傷つけ、硬く厳しい態度で人を教育することは不可能である。

67

規律の名のもとに、教育者が自らの下で働いている人々を迫害することは、決して承認できないことである。

68

相手に対して厳しすぎる態度を取ることは憎しみを生む。過度の寛容は権威を弱める。成功はこれらの間でバランスをとることで可能となる。

69

教育者はいつも柔らかく優しく話すべきである。なぜなら誰も固い表現や態度を好まないからである。相手の心に影響を及ぼす最良の方法は優しさ、柔らかい言葉、そして謙虚さである。

70

自分を精神的に健康だと感じないパイロットに飛行の許可が与えられないように、、いりあいらして機嫌が悪い教育者も授業する許可を与えられるべきではない。

71

教育者は、警告や忠言を穏かに与えるべきである。相手の心に傷を付けることは自分にとって大きな人格上の欠点であることを忘れてはいけない。

72

人間はいつも感情の影響を受けている。それにより考え、判断する。この観点から、教育者が相談をすることによって行動することは、教育奉仕が正しく、効果的なものとなることを可能とする。

73

心が精神的な喜びや精神性で満たされている教育者の生徒達への影響はあたかも、バラ、カーネーション、ナディアのような花で飾られた庭園の上を拭く風が、どこに行こうとも人々に春の心地よさを感じさせる心地よい香りを運ぶことのようである。

74

世界はこの三つのもので天国に変わる。
手や舌や心から慈悲を溢れさせて。

75

完璧な人々は永遠の救いを達成するために、その周囲に、教育、奉仕、慈悲によって救われる他の人々を探す。

76

本当の征服は心の征服である。これはただ、その心をイスラームの修道院のようにする人がなしとげることである。

77

模範的な教育者は心の専門家である。教育者は精神に永遠の命を接種をする一人の心の医者である。

78

教育者の心は、アッラーの目で被造物を見、精神的なリハビリセンターになるべきである。

79

愛情と努力はあらゆる問題を解決する。
私たちが人の問題を解決してあげれば、
その人は私たちの仲間となる。そうして
得られた人の善行と、失われた人の重い
責任の中に私たちはいる。

80

愛情の秤は寛容である。意味のない言葉は価値がない。メブラーナは「言葉の道化師な」と言う。愛情は、献身によって示されるべきである。

81

教育者は生徒達の悩みに自らも悩み、彼らの喜びに自らも喜ぶべきである。彼らを友人や兄弟のように思うべきである。親友であること、兄弟であることが言動にも反映されるべきである。

82

教育者は生徒達の恥をを探す人ではな。
彼らの無礼さを覆い、彼らをよりよい状
態にする人である。

83

愛情は二つの心の間にある電気の線である。教育の質はこの電線が築かれるかどうかにかかっている。

84

教育者が心のドアを最後まで開けば、生徒は彼に関心を持つようになる。

85

教育者に対する愛情は、彼が教えた事への関心をも強める。教育者が生徒達にたいして愛情と慈悲を持って振る舞うことは、彼が教えることが合理的というよりもむしろ精神的な方法で伝達されることを可能とする。

86

教育者は礼拝場に入るように敬意を抱きつつ教室に入るべきである。一番重要な教材は愛情と結びつきであることを知るべきである。

87

心に届かない知識は、叡智には変わらない。

88

教育者は子供達の最も貴重な器官、
すなわち心と魂で一つの世界観を築
く。だから教育者は「未来の建築
家」と言えよう。

89

知識と英知はただ篤信と混ざりあった豊かな精神生命によって教えられ、影響を与えることができる。人がこの状態に到達すると、生徒達にも愛情を込めたまなざしを向ける。愛情と共にまかれた種は永遠となる。

90

教育者になるためには、強い思いやりと
慈悲の感情を持つべきである。

91

生徒に対し、治療を受けるべきの鳥であるかのように見なし、思いやりと慈悲を持って振る舞うべきである。なぜなら思いやりと慈悲は良性の心を育てるために最も効果的な薬である。

92

愛情は教育者の心で、いつまでも燃え続
ける火のようである。

93

思いやりと慈悲のない、自分の利益のみを追求する人を教育者にすることは、人類を迫害することである。

94

バラや花が人を微笑ませるように、他の人々を導こうとする人も、バラのような性質を持つべきである。最も硬い心すらやわらげ、最も残虐な人すら微笑ませることができるべきなのだ。

95

教育者が最も注意すべきことは、失敗は自らの我欲ゆえであり、成功はアッラーからのものと認識することである。

96

教育者は、自らの属する職業がまず自分のために大きな恵みであることを考え、それをふまえて、生徒達が物質的、精神的な身に着けているものについて、自らの責任であると見なすべきである。

97

教育者はエゴと主張の代わりに愛と愛情を持つべきである。

98

教育者の人生は親しみ深く、偽善から遠く、努力と奉仕の原則の上に築かれるべきである。

99

あらゆる新しい日は人生のカレンダーの白いページである。この先にある白いページを最もよい形で埋め尽くすことができるかどうかはあなた次第である。

100

教育者は生徒達と一緒に過ごすあらゆる時間を、最期の息のように感じ、十分に生かし、感謝の気持ちの中にあるべきである。

101

子供は、両親と先生が与える教育を必要とする。来世では教師が、自分が教えた生徒からもたらされるあらゆる種類のドゥアーを必要とする。

最もすぐれた教育ガイドである
クルアーンとスンナから、いくつかの人
生の法則
一番きれいな言葉はアッラーの本である。
最も素晴らしい道はスンナの道である。
最も丈夫な避難所は篤信である。
最も誉れある言葉はアッラーの祈念である。
最もきれいな物語はクルアーンのものである
光の道は預言者たちの導きの道である。
価値があり役に立つ知識は、アッラーへの智へと変わる
ものである。
アッラーに対する感謝のなされたわずかな物は、感謝さ
れていない多くのものよりなお尊い。
最悪の弁解は死に際の弁解である。
最悪の後悔は審判の日の後悔である。
最大の過ちは嘘つきであることである。

最も尊い豊かさは、心の豊かさである。満足することによって豊かにすることである。

最も尊い信仰は心に根付いたものである。

ザカートや寄付、サダカがなされていないお金は、来世でその人を苦しめます。

最も悪い収入は高利貸しである。

最も深い盲目は本当の道に入ってからまた迷ってしまうことである。

最悪の盲目は心の盲目である。

誰かの導きの要因になることは、あらゆることよりもなお尊いことである。導きの要因になることは、心の教育の結果可能となる。

浪費はそれぞれに悪いことである。しかし最もひどい浪費は、「人の浪費」である。